

平成28年度
三鷹の森学園 三鷹市立第三中学校 学校経営方針

三鷹の森学園の教育目標

地域とともに生き、豊かな学力と人間力・社会力を有し、国際社会に貢献できる児童・生徒を育成する。

本校の教育目標

社会の変化に主体的に対応し、豊かな心を持ち、心身ともに健全でたくましく生きる力を育成する。

○人を大切に ○時間を大切に ○物を大切に
平成28年度は「人を大切に」を重点目標とし、生徒の自立と共生をめざす。



めざす生徒像

- ア 自ら考え、正しく判断し、主体的に行動できる人
- イ 積極的に学び、学び続ける意欲のある人
- ウ 自分の生き方に誇りをもち、互いに支え合いながら自己実現を図る人
- エ さまざまな人と適切なコミュニケーションをとることのできる人
- オ 地域や国際社会の一員としての自覚をもち、社会や人のために積極的に貢献できる人



めざす教師像

- ア やり抜く教師（教えた後、指導した後まで責任をもつ教師）
- イ 学び続ける教師（常に学ぶ姿勢をもち、自己の知識・技能・見識を更新できる教師）
- ウ 協働する教師（組織を動かし組織で動ける教師）
- エ 待つことのできる教師（生徒が自らの力で考え、判断し、行動するまで見守ることのできる教師）

I 学習指導

- ① 分かる・できる・かわり合う授業を工夫し、能力を引き出し、個性が生きる学習指導を展開する。
- ② 人権尊重の精神に基づき、豊かな学びを通して生徒の個性が生きる指導を工夫する。
- ③ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、それらを活用して思考・判断・表現する能力を育む。

【主な具体的方策】

- ア 基礎的・基本的事項の徹底を図る学習活動を、毎時間の授業の中に設定
- イ アクティブ・ラーニングを実現する校内研究の実施と、各教科における実践
- ウ 全ての教科で定期テストにおいて「PISA型」「B問題型」の論理的思考力と表現力を問う問題を出題
- エ 「三鷹『学び』のスタンダード」（学校版）に示された指導アイデア例の実践化
- オ 授業計画、学習方法、評価方法を記載したシラバスを全教科作成

II 生活指導・健全育成

- ① 生徒の自治力・企画力を育てるために段階的・計画的な指導を推進する。
- ② 問題行動に対しては迅速な報告・連絡・相談を徹底し、組織的な指導・対応の充実を図る。
- ③ 生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。
- ④ 生徒会活動・学級活動・行事等の特別活動の充実をとおり、生徒の帰属意識・規範意識を育成する。
- ⑤ 社会や自然と関わる活動、地域貢献活動等への参加をとおり自己有用感や自尊感情を育む。
- ⑥ 生徒会の企画・運営による小学校との交流活動を推進する。
- ⑦ 学習との両立を保障するために部活動の適正化を図る。

【主な具体的方策】

- ア 不登校、長期欠席者に対する「連続3日ルール」の徹底。
- イ 「学校いじめ対策委員会」によるいじめ問題への組織的対応
- ウ スクールカウンセラーによる第1学年生徒を対象とした全員面談、ストレスチェックの実施
- エ 部活動への加入促進と学習との両立を実現するためのメリハリのある活動計画

III 進路指導

- ① 中学校3年間の学習・進路指導の充実を図り、高校等への進学と将来に向けた職業観の育成を図る。
- ② 進路指導において、真の自立を目指して、自分を理解し、自分で考えきめたことについて最後までやりぬく態度を育てる。
- ③ 進学指導に関する情報提供の充実を図る。

【主な具体的方策】

- ア 「進路だより」の発行と、生徒・保護者との双方向的な情報提供の充実
- イ 学校ホームページ等の活用による第2学年への情報提供。
- ウ 上級生による下級生へのオリエンテーション、ガイダンスの実施
(職場体験報告会、進路体験を語る会、等)

IV 教育課題への対応

- 体力・運動能力向上
自ら目標をもって運動に取り組む態度を育み、体力の向上を図る。
- コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進
「めざす生徒像」の実現のために、教育課程の円滑な接続を図る。
- 教育支援の充実及び交流活動の推進
教育支援コーディネーターを中心とした教育支援委員会の機能を生かし、通常の学級に在籍する支援を要する生徒への指導を充実させる。
- オリンピック・パラリンピック教育
2020年のオリンピック・パラリンピック東京都大会を教育の貴重な機会ととらえ、全教科を通して教育活動を推進する。